

建設も、多くの皆さんのご協力で完成しました。その後、卒業生・在校生に大変好評で有効にご利用いただきおり、改めて感謝しています。今回の周年事業ですが、先にご案内いたしました。

百周年の事業同窓会館「希望の鐘」が、時代の変遷により校名や校舎を変え、百二十年を迎えた。この間多くの卒業生が巣立ち世界で活躍頂いております。改めて歴史を感じます。

一八九八年七月一日、地元所澤町の有志により開校した「共立英和学舎」が、時代の変遷により校名や校舎を変え、百二十年を迎えました。この間多くの卒業生が巣立ち世界で活躍頂いております。改めて歴史を感じます。

皆さんこんにちは、如何にお過ごしですか。今年も同窓会報をお送りさせて頂きます。同窓生の寄稿文、同窓会の開催報告、在校生支援事業、今年度卒業生の進路状況、学校の様子など掲載させて顶きました。この一年も先生並びに生徒さんのご活躍は素晴らしいものがありました。また会の運営、会報の編集等担当の先生には御礼申し上げます。

同窓会会長 松本明信



創立百二十周年

同窓会会長
松本明信



内させて頂きました「同窓会名簿」の編纂作業を行つています。色々な意見も頂き参考にさせて頂いております。有難うございます。発行にあたりご協力頂きました同窓生の皆さん、地域の協力者の皆さん、誠に有難うございました。購入をご希望された皆さんには、年内にお手元にお送りしたいと進めております。百二十年の歴史伝統は私たち卒業生にとって大きな誇りではないでしょうか。同じ学び舎で勉学に部活に頑張つたあの青春時代はその後の人と推測いたします。今、社会は少子高齢化の厳しい時代に遭遇しております、最近の予測でも二〇四五年には人口は激減し高齢化率もさらに進むと言われています。これからの方々はさらにはさらに築いていくことが、求められています。

本校の前身である共立英和学舎の創立、本校の前身である共立英和学舎の創立、明治三十一年（一八九八年）から百二十年の節目を迎えました。埼玉県下で四番目です。明治・大正・昭和・平成そして百二十一年目に五つ目の元号を迎えました。本校の歴史を振り返るとき忘れてならないのは、家系図のような父方と母方、二筋の流れです。共立英和学舎はもちろん男子校です。この流れれをくむ学校と、もう一方の女子校が終戦後、昭和二十三年（一九四八年）に統合されて現在の高等学校となりました。

私は昨年度着任以来、様々な機会に男子校の歴史や卒業生（たまたま男性ばかり）の活躍について生徒に話をしてきました。本稿では「女子」に触れます。女子校の歴史は大正五年（一九一六年）の町立所沢実科高等女学校の創立に始まります。こちらも百年を超える伝統を誇ります。

百二十年の時を超えて
校長 曽根一男



百二十年の時を 超えて

2018年(平成30年)
7月発行
埼玉県立所沢高等学校
同窓会
所沢市久米1234
☎04(2922)2185

= 目次 =

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| (6) (5) (4) (3) (2) (1) | 同窓会長・校長あいさつ |
| ～ | 卒業しました どうぞよろしく |
| 在校生支援プログラム | 同窓会報告 |
| (活躍する卒業生) | 同窓会報告 |
| 部活動紹介・部活同窓会報告 | 同窓会報告 |
| (12) (11) (10) (9) (8) (7) | 平成三十年度 進路実績 |
| | 同窓会役員名簿・決算・予算報告 |
| | 事務局から |

一〇八年三月卒業しました

卒業しました

どうぞよろしく



平成三十年三月卒業

田中 桢也

ながら活動をすることも初めてでした。ダンスは個人のスキルも大切ですが、部活として考えると団体を意識することが重要でした。大人數がまとまるまでは数々の衝突がありました、誰かが重荷になってしまったり、思い通りに進むことはほとんどなく、悩むことが多いものでした。

しかし引退した今改めて考えると、この部活動に励んだ二年間がいかに大きく、学ぶことの多いものであつたかを理解しました。部活動から学べることは日頃の勉強からは学べないと思います。今、部活動に励んでいる人には、途中で諦めず引退まで走り抜けてほしいと思います。

また、自分の三年間を通してアドバイスしたいことは、「新しいことに挑戦することも大切」ということです。私の場合は、入学当時視野に入っていたこの部活に入ったからこそ学べることが多かつたのではないかと感じています。

これから進学して、周りの環境が変わることも含め、初めての経験が多いと思いますが、これまでの経験一つ一つを大切にし、高校で学んだことを活かして、授業だけでは学べない様々なことにチャレンジしてゆきたいと考えています。

ダンスを始めたことも初めての経験ですが、協調性をここまで意識できました。



平成三十年三月卒業

野原 愛理

「所高の三年間で君たちは何を学んだ?」と問われたら、私は「仲間の大切さ」と答えるだろう。私にとって所沢高校の生活はとても充実していて、想像よりもずっと楽しくてあつという間の三年間だった。それは先生方や友達、先輩と後輩に恵まれたからである。同じギター部の仲間、クラスで切磋琢磨した仲間、彼らがいたから今の自分があると確信している。

一番最初に「仲間の大きさ」を感じたのは朝練習の時だった。どんなに早く着いたと思っても私より必ず早く練習を始めている先輩がいた。その姿を見て、もつと頑張らなきや、一刻も早くその背中に追いつきたいと思った。私はそれからより練習に励んだ。おそらく私は同級生の中でダンスをやったことがほとんどのかったので、当然初心者そのものでしたが、周りの部員から刺激を受けつつ、引退まで努力し続けることができました。

ダンスを始めたことも初めての経験ですが、協調性をここまで意識できました。

後のコンクールでの「パストラル」そら・くも・かぜ」は今でも耳に残っている。仲間と気持ちがひとつになつた瞬間だつた。私が部活動に向こう姿勢を作ってくれたのは仲間の存在であり、努力を重ねられたのも仲間のおかげだ。

勉強面でも「仲間の大切さ」を感じた。二年生のときだつた。英語のテストの返却時にクラストップは満点だと言われた。私は満点ではなくた。満点を取つたのは、前の席に座つていた少しきせつ毛で背の高いボーカリストの彼女だつた。友人から彼女の評判は聞いていたが、いきなり「私のライバル」と言われた時はびっくりした。想像していたよりも芯が強く、彼女のような存在は私にとって初めてだつた。二人で切磋琢磨して結果的にとてもよい成績を残すことができた。三年生では違うクラスになつたが、変わらず競い合い、友達として支えあつた。本当に彼女の存在は大きかつた。

部活動でも勉強面でも、周囲の人

の大きさを感じた三年間だつた。これから進んだ先で出会う仲間とも所の甲斐もあつて上達もした。また、朝練習の出席率が一番高かつたし、その甲斐もあつて上達もした。また、目標に向かつてひとつの演奏を作り上げる仲間がいたから頑張れた。最

(中央大学 商学部進学)

(上智大学 理工学部進学)

「在校生支援プログラム（活躍する卒業生）」

恐竜博士への道

福井県立恐竜博物館 研究員
関谷 透

1 恐竜研究の夢

「恐竜」は多くの少年たちの憧れの的ですが、私も小学生の時、上野の国立科学博物館で大きな恐竜の骨格を見上げ、「神秘的な生き物がいたんだなあ」という印象を持ちました。その後、中学三年の進路指導の先生から、研究者という道もあるという話を聞き、科学者に憧れるようになりました。高一の冬頃に父が国立科学博物館の富田幸光先生の本を買ってきてくれて、研究者になりたいなら相談してみてはと言われ、電話してみました。当時頂いたお返事は、「日本の大学には恐竜の専門家はないが、まずは四年間、古生物学と地質学の基礎をしつかり学びなさい。その後、海外の大学院へ留学して研究するのが良いでしょう」というものでした。さらに、「日本の大学で古生物学を学べる所は少なく、東大・京大といった旧帝大くらいですよ。あと、早稲田大学の教育学部にもいるなあ」とのことと、ハートフルは相当高いんだなあと思いつながら過ごしていると、一年上の先輩が現役で京

都大学に合格するという快挙を成し遂げました。それを見て、「所高生でも頑張れば京大に行けるんだ」と思い、私も京大に挑戦しましたが残念ながら夢はかないませんでした。

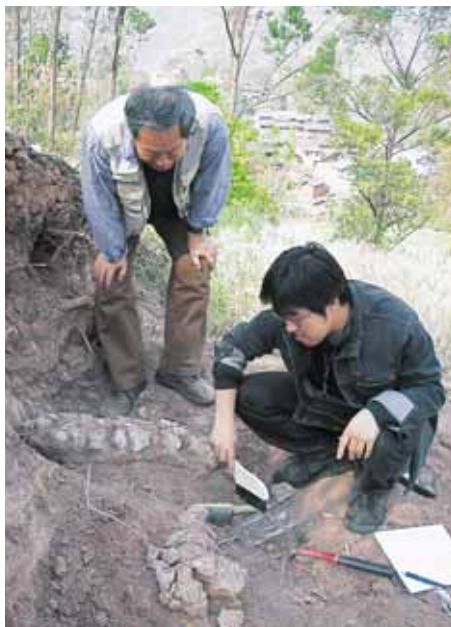
2 早稲田大学から中国留学へ

二〇〇一年から早大教育学部理学科地球科学専修へ進学しました。早大では高校地学よりもさらに専門的に古生物学や堆積学、構造地質学などを勉強し、三年の後期からは恩師平野弘道先生（故人）の研究室に入りました。先生はアンモナイトや層序学（地層の時代を調べる研究）が専門で、私も卒論では北海道から見つかるアンモナイトや二枚貝の化石を元に、地層の時代を調べました。やはり将来は恐竜を研究したいと話したところ、中国留学を勧められ、少し悩んだ末に留学を決意しました。平野先生は中国の研究者と懇意にされており、世界的にも著名な恐竜研究者である董枝明先生をご紹介くださいました。師は一九七〇年代から九年に出版された本を私が日本語訳した『アジアの恐竜』（国書刊行会）もご参照いただければ幸いです。

恐竜研究のために留学する場合は、歐米の大学がほとんどで、中国へ留

学したのは私が初めてでした。それまで中国が留学先に選ばれなかつた理由としては、言葉の壁と、研究の水準が欧米ほどには高まっていなかつたためと思われます。中国では一九二〇年代から恐竜の化石が発掘されており、文革期に停滞したものの、改革・開放以来急速に恐竜研究が進められていました。高速道路や鉄道、工業団地の建設現場から恐竜化石が発見され、研究が進むという例が世界各地に見られます。中国もこの例にもれず、手付かずの化石が大量に眠っていました。また、経済的にある程度豊かになつて、研究に割く余裕が生まれることも必要だつたようです。

董先生はすでに北京の研究所をリタイアされていたため、吉林大学の孫革先生をご紹介いただきました。孫革先生は著名的な古植物学者で、年数回国際シンポジウムを主催されていました。そこで、各国の古生物学者とお知り合いになることができました。留学中に研究していた化石は雲南省と四川省のジュラ紀の地層から発掘された大型の草食恐竜で、「竜脚類」（カミナリ竜とも呼ばれる）と



雲南省での発掘。右が著者、左は董先生

いうグループに属します。チュアン・ジエサウルスという竜脚類を詳しく調べなおすという論文を書いて、二〇一〇年に博士号を取得しました。なお、雲南省では竜脚類よりもやや原始的な恐竜が多産することから、今後は、同種内で個体差とか、どのくらい違つたら別種にされるのか、といったテーマに関心があります。

同じ研究室の院生はすべて中国人で、買い物や食事でも中国語を使わざるを得ない状況でした。早大時代に第二外国語として中国語を履修していましたものの、渡航時にはほとんど聞き取れませんでした。半年ほど過ごしたら徐々に理解できるようになります。一年後には簡単な会話なら特に不自由しない程度に慣れました。実際にには言葉よりも生活習慣の違いに苦労しました。中国では（良くも悪くも）細かいことは気にしないので、思い通りにいかなくともクヨクヨと引きずらないとか、粘り強く交渉し

て要望を通すというタフさが身に付いたように思います。

ちなみに、吉林大学がある長春市は旧満州国の首都（新京）で、ラストエンペラー・愛新覚羅溥儀の宮殿は、今では同大学附属の地質博物館になっています。

博士号を取得する直前にも福井県立恐竜博物館の職員募集があつたのですが、残念ながら採用されませんでした。折り良く、四川省にある自貢恐竜博物館で研究職員を探していることを福井恐竜博の東洋一先生から紹介され、その後二年半、研究漬けの日々を送ることができました。ここは一九八〇年代から非常に多くの恐竜化石が発掘された地で、二〇〇〇年以後の化石が埋まつたままの発掘現場を、そのまま公開している展示場は圧巻です。

で働いています。担当する業務は年
度によつて変わりますが、標本資料
の整理や企画展の開催、全国各地へ
のPR活動なども行っています。夏
の発掘では地質学を学ぶ学生さんた
ちと炎天下で汗を流します。かく言
う私も学生時代には発掘に参加し、
当時発見された腕の骨は、現在、フ
クイティタンという竜脚類として命
名されています。

3 近年の研究の進展

3-1 研究材料の増加

「日本からは恐竜の化石は産出し

筆者は二〇〇五年から中国の大学院へ留学して古生物学を勉強しましたが、当時は日本で恐竜の研究ができる大学はほとんどありませんでした。現在は当時の留学組が帰国して学生を指導する立場に就かれており日本の大大学でも恐竜について学べるようになってきています。日本古生

卵の化石が発見されました。長崎県西海市では、新生代（恐竜が絶滅した後の時代）と考えられていた地層から、草食恐竜の歯の化石が発見され、実は中生代の地層だったことが明らかになりました。先入観とは恐ろしいもので、無いと思ってハンマーを振ると、実際には化石があつても見逃してしまうもののです。

ない」というのが長らく古生物学界の定説でしたが、一九八九年から福井県で本格的な恐竜化石発掘が始まりました。その後、日本各地で次々と恐竜化石が発見されてきました。そのほとんどは歯や数個の骨など断片的な記録ですが、中には福井県勝山市や北海道むかわ町のように、ほぼ丸々一匹の化石が発見されることもあります。

また近年では、今まで恐竜化石が見つかっていなかつた場所からも発見の報告が相次いでいます。例えば二〇一七年には香川県で初めて恐竜

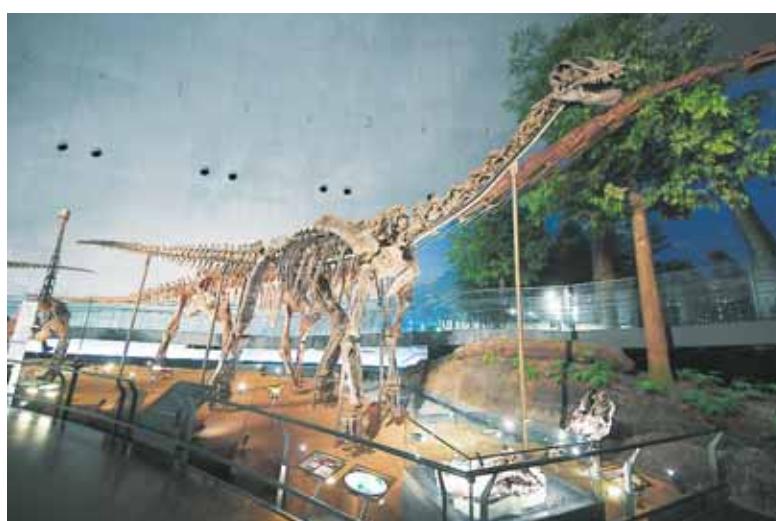
清相集

物学会が運営する愛好会（化石友の会）のウェブサイトには化石の勉強ができる大学・大学院がリストアップされていますので、興味のある方は検索してみてください。

3 研究手法の発達

のうち五種が福井県で発掘されたものです。福井県でこれほど多くの恐竜が発見されたことは、一九八九年から断続的に実施されてきた発掘の成果です。

末尾となりましたが、当館は約五千平方メートルの展示ホールに四十四体の恐竜骨格が林立し、生命の進化や地球の歴史についても学べる、国内随一の古生物を専門とする博物館と自負しております。まだ来館されたことのない方は、ぜひ一度ご覧いただくことを心よりお勧めいたし



福井で研究中のカマラサウルス

卒業五十年、初めてのクラス会開催

昭和四十二年三月卒業

三年二組・幹事 千本木民子

内藤 正明

開宴前の受付では、「誰か分かります?」「変わっていないね」「本当に久しぶり」「元気?」「あの方は誰」などの会話が交わされ、当時を思い出しては昔話に花が咲いていました。

学び舎が望めるベルヴィザ・グランにて平成二十九年九月十二日に卒業五十年にして初めてのクラス会を開催しました。昭和二十三～二十四年のベビーブーム時代に生まれ、一クラス五十人（女子二十八人、男子二十一人）の編成で、今は亡き三上駿三郎先生が担任でした。

間もなく古希を迎える年齢に到達し、時間も自由に使えるようになり、元気なうちに仲間に会いたい、ということでクラス会を計画しました。卒業後半世紀も経過していると住所が変わっている方が多く、同窓会事務局の先生から提供していただいた住所録を基に、一人ひとり電話での確認による住所録の作成からのスタートでした。最後まで住所が不明な方が数名、残念なことに三人の方が亡くなっていました。

当日、参加者は二十三人と幹事の予想以上の出席数、近県各地から集まってくれました。

会では、参加者全員に高校時代の思い出や近況をご披露していただきました。「クラス会は開かれないものと思つていた」「参加しようかどうするか迷つたが参加してよかつた」「元気な皆さんに会えてうれしい」「まだ現役で頑張つている」「好きな野菜づくりの毎日」等々、予定の時間をオーバーしての話に、笑いが絶えることがありません。皆さん元気そのものでした。

第二次会を所沢駅の近くで開催したところ多くの方が参加し、話は尽きることがありませんでした。五十年の溝があつという間に埋まり、元気な高校時代に戻っていました。

次のクラス会は二年後に開こうと決まり（幹事は杉田さん・清水さん）、二年後の元気な姿での卒業生が参集して賑やかに行われました。また今回の同窓会では、宴席の前に母校訪問を開催し、六十名余の参加がありました。



半世紀ぶりの母校訪問と同窓会

昭和四十七年三月卒業

幹事 内野 吉治

平成二十九年十一月十八日（土）、

昭和四十七（一九七二）年三月卒業の同窓会が母校に近接する「ベルヴィザ・グラン」を会場に開催されました。当日は傘寿を越えられた恩師・米山精作先生をお迎し、百余名の卒業生が参集して賑やかに行われました。

また今回の同窓会では、宴席の前に母校訪問を開催し、六十名余の参加がありました。

母校訪問では、高校三年生を過ぎた三号館（当時は新館）の校舎内や拡幅された体育館・新設になった同窓会館を見学しましたが、母校へ足を運ぶのは卒業以来（四十六年ぶり）という者も多く、大変喜ばれ、当時を懐かしく回想しているようでした。

解体された「講堂」は、つい先日まで現存していたと聞き、青春期を過ごした亡き建物の空地を眺めると、一抹の寂しさを覚えました。

しかし、当時の石膏色からブロンズ像に変わった「青年の像」から見ると、後方には立派な「同窓会館」が建ち、発展する母校を伺い知るこ

ともできました。

最後になりますが、ここに改めて、学校開放を快諾して頂き、更には校内を丁寧に案内して頂いた母校の御好意に対し、心より感謝申し上げる次第です。

当日の同窓会の宴席も校歌・応援歌で終了し、名残を惜しむ中、再会を約束してお開きとなりました。



還暦を迎えた同窓会

昭和五十年三月卒

実行委員長 高橋 清史

母校まで自転車で通う道すがら、幼い顔をした小学生とすれ違います。

十三年間も通い続けるうち、彼らはいつの間に制服を着て中学生になります。高校生になつて、次々に我々と同じ社会人となつていきます。

「人生の折り返し」と銘打つて集まつた前回五十歳の同窓会から一年が過ぎ、ここに出席出来なかつた仲間の返信の内容も、人生後半ステージの突入を感じずにはいられません。ただ不思議なのは、お会いしてみると皆さんが四十三年前と同じお顔に見えてくることです。

さて母校所沢高校は、今「名門復活」を目指に日々奮闘しています。その中で失つて貰いたくないものは、「自由な校風」だと私は思っています。その校風の中で育つた故に失敗したことにも多かつたように思います。しかしプラスになつたことも限りなくあつた気もします。その是非を自問自答することも、私たちの人間形成に大きな足跡を残していたのではないでしようか。



場にあり、「母校」「後輩たち」に対して、おそらく皆さんが日頃考えることのない問いかけを、「自己肯定」として、自分たちの時代に重ねる機会も多いのだと思います。

「次に集まる」ことをお約束しながら、日も定めずにおわかれしました。でも「また皆で集まろうよ」という声がある限り、皆さんのが元氣である限り必ず集まりましょう。

お元気で。また逢う日まで。

（変わらぬ笑顔で再会）

一九七七年（昭和五十二年）卒業

三年五組クラス会手記

幹事・柴田 敏満

高校を卒業した一九七七年のころから、すっかり風景を変えてしまったプロペ通り。イタリアンのお店で二月二十四日にクラス会を開催しました。クラス四十六人中、男性七人、女性七人の計十四人が参加。前回のクラス会からかなりの時間が経過しており、幹事としては申し訳ない気持ちでいっぱいだつたので、開催で持て肩の荷が下りました。

受付で少し緊張気味に再会した仲間たち。「あまり白髪ないじやない」「体型変わつちやつたね」「昔と変わらないね」。少年少女だったころと変わらない笑顔が戻つて、みんなの心はすぐ解れていきました。

乾杯の音頭を取つてくれた前幹事は、前回クラス会の際に担任の先生から届いたはがきや、写真やしおりなどを紹介してくれて、懐かしい話に花が咲きました。宴が盛り上がりってきたところには一人一人からの近況報告。子供たちの近況、今の仕事、健康状態、最近の趣味や社会活動などの話を聞かせてくれました。「近く渡米する際、ゴルフのマスターズ・トーナメントを現地観戦する。黄色い服を着ているからテレビ中継を観るように」「最近、神奈川から所沢に戻つて来て、昔と変わつてしま

つた所沢の街を散策中。迷つたら助けてね」といった近況報告は皆を笑了。都合で二次会からの参加者もいました。体育の先生になつた彼。今まで背筋をピンと伸ばしていて「あのころと変わらずちゃんとしている。先生になるべくしてなつたね」とは何人かの評価。お酒を飲まないのに参加してくれた彼の気持ちが嬉しかった。予定では七人参加の二次会が急きょ十三人参加となつたことも幹事としては嬉しい悲鳴。

残念だったことは、体調が優れず担任の山田先生がお亡くなりにならっていたこと。還暦直前のクラス会ともなれば年相応の出来事もあるけれど、四十一年の年輪を重ねても昔と変わらない皆の笑顔は、私たちを高校時代に戻してくれたとともに、次のクラス会を期待する気持ちにもさせてくれました。



同窓会 報告

同窓会 五十歳の節目

一九八六年（昭和六十一年卒）

同窓会副会長

三上 恭央

二〇一七年十月十四日（土）、新宿グレースバリ新宿本店にて、五十歳の節目を迎えた、男女七十六名の卒業生が集い同窓会を開催しました。当日は、今井先生・若林先生・五十嵐先生・小平先生・多田先生も参加して頂きました。

午前中には、所高ツアーも開催しました。参加人数は数名でしたが、青年像前に集合し、合宿所・同窓会館「希望の鐘」で歓談の後、校舎内外を見学しました。

同窓会では、様々な企画を楽しみました。クラスごとに壇上に上り、幹事さんの企画は楽しい物ばかりでした。所高時代を思い出し、皆で笑い合いました。

旧担任の先生からも、一人ひとりお話を頂きました。先生方の今の近況などをお話ししてもらいました。笑い話になりますが、教員の悪い癖か自分も教員なので、反省しようと思いました。何はともあれ、先生方！ご出席頂きましてありがとうございました。

同窓会を開催して、つくづく「同

級生は宝』だと感じました。全員が平等に「いい年こいた五十歳」。住む場所・働く場所も違いますが、一同にそろえば、「所高生」にタイムスリップ。青春時代に心が若返り。楽しく、素晴らしい同窓会が開催できました。

※追記（お知らせ・お願ひ）

同級生の皆様、同窓会本当に楽しめました。幹事の小黒さん、伏屋さん、下川さんをはじめ多くの方のご尽力によって、同窓会が開催できたことを感謝申し上げます。

「同窓会報が届いてない」と声がありましたので、当日の参加者連絡先を、所沢高校同窓会事務局に、情報提供させて頂きました。ご無礼がありましたら、この場をおかりしてお詫びを申し上げます。事務局から、「同窓会名簿」作成のお知らせが、三月に届いたと 思います。同級生の連絡先が分かりましたら、所沢高校同窓会事務局へ情報提供をお願いします。また、同窓会で会いましょう。



卒業して三十周年

一九八七年卒業

伊藤 明

十一月三日池袋のプリンスホテルにて卒業三十周年を記念して一九八七年卒業生の同窓会を開きました。四年ほど前卒業生約百二十名と当時三年担任の先生七名が集まりました。四年ほど前フェイスブックでグループを立ち上げ、少人数で時々集まるようになり、その中で有志八名ほどの幹事が結成されていきました。準備に

半年も費やしただけあり、卒業三十年周年を飾るに相応しい、楽しく熱のこもつた同窓会となりました。会の中では卒業アルバムのスライドショーシから始まり先生方一人ずつの有り難い話しを頂戴したり、最後は参加者全員が寄り添つて記念撮影をすることが出来ました。さすがに風貌は少し変わりましたが、三十年ぶりに会うとは思えないほど、すぐに打ちとけ合い、お互いを懐かしみ、確実にこれからまた長く付き合うであろう仲間として絆を確かめ合うことが出来ました。そして、あの頃にはうまく話しかけられなかつた「あの人」にも、過ぎた年月のおかげで話しかけられるようになり、楽しく会話した人も多かつたと思います。三十年とは長い年月のように感じていますが、再会を果たすとすぐにまたあの頃のように盛り上がることができた人も多かつたと思います。方昔のままの芸風？で変わることは、今も変わらぬ所高生。先生

なく、貴重なたくさんのお話しさ聞かせて頂きました。あの頃の先生方の年齢をとうに超え、多くの人生経験を積んできたはずですが、全く足元にも及ばない氣がするのは自分だけでは無いと思います。自由極まりない校風の中で何百という生意気なガキと毎日向かい合い、進路や人生について考えて頂いていたのだと思ふと、本当に感謝しかありません。ながら教えることよりも難しかったはずです。でも、その自由の中で様々なことに気付き、自由を自分達の手で守ることの大切さこそが一番学んだことのような気がします。今回、多くの同窓生と集い、恩師へその感謝の意を伝えられたのは本当に良かったと思います。ご出席頂きました先生方には改めて感謝申し上げます。



平成30年度入試結果 大学・短大合格者数 (平成29年度卒業生・既卒生)

	大学名	合格数			入学数		
		現役	既卒	合計	現役	既卒	合計
国 公 立 大 学	室蘭工大	1		1	1		1
	茨城大	1		1	1		1
	宇都宮大		1	1		1	1
	埼玉大	3	1	4	3	1	4
	長岡技術科学大	1		1	1		1
	大阪教育大		1	1		1	1
	埼玉県立大	3		3	3		3
	首都大東京	2		2	1		1
	岡山県立大		1	1			
	防衛医科大学校	1		1			
	計	12	4	16	10	3	13
	平成29年度入試	13	5	18	13	5	18

	大学名	合格数			入学数		
		現役	既卒	合計	現役	既卒	合計
私 立 大 学	青山学院大	6	3	9	3	1	4
	麻布大	2		2			
	亜細亜大	14	3	17	5	2	7
	跡見学園女子大	8		8	3		3
	桜美林大	1		1			
	大妻女子大	4		4	3		3
	学習院大	10	2	12	8	1	9
	神奈川工科大	1	2	3	1		1
	川崎医療福祉大		1	1			
	関東学院大	2		2			
	北里大		2	2			
	京都産業大		1	1		1	1
	共立女子大	2		2	1		1
	杏林大	7		7	3		3
	慶応大		1	1		1	1
	工学院大	6	1	7	4		4
	国学院大	4		4	3		3
	国際基督教大		1	1		1	1
	国土館大	8		8	2		2
	駒澤大	15	7	22	9	1	10
	駒沢女子大	2		2	1		1
	埼玉医大	4		4	4		4
	産業能率大	1		1	1		1
	実践女子大	14		14	6		6
	芝浦工大	7	4	11	2	2	4
	十文字学園女大	10		10	3		3
	淑徳大	2		2			
	城西大	10		10	5		5
	上智大	8	1	9	4	1	5
	尚美学園大	4		4	3		3
	昭和女子大	4		4	2		2
	女子栄養大	8		8	5		5
	女子美大	3		3			
	白梅学園大	1		1	1		1
	白百合女子大	1		1			
	杉野服飾大	1		1	1		1
	駿河台大	4		4	2		2
	成蹊大	9		9	2		2
	成城大	6	1	7	3		3
	聖心女子大	1		1	1		1
	清泉女子大	2		2	1		1
	西武文理大	1		1	1		1
	専修大	6		6	4		4
	創価大	8		8	4		4
	大正大	3		3	1		1
	大東文化大	23	1	24	5		5
	高千穂大	1		1	1		1
	拓殖大	4	2	6		1	1
	玉川大	4	1	5	1		1
	多摩美大	2		2	1		1
	中央大	12	3	15	6		6
	津田塾大	1		1	1		1
	帝京大	12	1	13	2	1	3
	帝京平成大	7		7	4		4
	東海大	2	3	5	1	1	2
	東京医療学院大	1		1			
	東京家政大	13		13	5		5
	東京経大	16		16	9		9
	東京工科大	6		6	4		4

	大学名	合格数			入学数		
		現役	既卒	合計	現役	既卒	合計
私 立 大 学	東京国際大	7		7	2		2
	東京造形大	3		3	2		2
	東京電機大	16	1	17	9		9
	東京都市大	3		3	1		1
	東京農大	5	2	7	2	1	3
	東京福祉大	1		1			
	東京葉大	1		1	1		1
	東京理大	1	1	2		1	1
	東邦大	2	1	3			
	東洋大	52	10	62	13	4	17
	東洋学園大	2		2			
	獨協大	4		4	3		3
	二松学舎大	1		1			
	日本大	21	8	29	7	5	12
	日本医療科学大	2		2			
	日本工大	3		3			
	日本社会事業大	2		2	1		1
	日本女子大	2		2	2		2
	日本体育大	1		1	1		1
	日本薬大	3		3	2		2
	フェリス女大	1		1	1		1
	文化学園大	1		1	1		1
	文教大	3		3	1		1
	文京学院大	3	1	4	1		1
	平成国際大	1		1	1		1
	法政大	22	5	27	12	4	16
	武蔵大	11	2	13	6	1	7
	武蔵野大	7		7	3		3
	武蔵野学院大	3		3			
	武蔵野美大	2	1	3	1		1
	明治大	13	3	16	7		7
	明治学院大	4	1	5	1		1
	明治薬大	3		3	3		3
	明星大	6	1	7	1	1	2
	目白大	8	1	9	4		4
	ものづくり大	1		1	1		1
	横浜薬大	1		1	1		1
	立教大	16	4	20	11	1	12
	立正大	3		3			
	早稲田大	5		5	3		3
	計	559	84	643	246	33	279
	平成29年度入試	598	155	753	252	41	293

	短大名	合格数			入学数		
		現役	既卒	合計	現役	既卒	合計
短 期 大 学	大妻女大短大部	1		1	1		1
	駒沢女短大	1		1	1		1
	埼玉医大短大	1		1	1		1
	埼玉女短大	1		1	1		1
	実践女大短大部	1		1	1		1
	淑徳大短大部	1		1	1		1
	上智大短大部		1	1		1	1
	女子栄養大短大	2		2			
	白梅学園短大	1		1	1		1
	東京家政大短大	1		1	1		1
	目白大短大部	1		1	1		1
	計	11	1	12	9	1	10
	平成29年度入試	14	1	15	9	1	10

	種別	平成30年3月卒			平成29年3月卒		
		4年制大学	短期大学	専門学校	その他(進学)	就職	未定
卒 業 生 集 計	4年制大学	257				265	
	短期大学	9				9	
	専門学校	30				31	
	その他(進学)					1	
	就職	(公務員含む)	3			2	
	未定	(浪人含む)	62			52	
	センター出席者数			294		294	
	卒業生数	361				360	
	現役進学率	82%				86%	
	平成30年3月卒業生	177				18	
	一般入試	177				18	
	公募推薦・AO	32				11	
	指定校推薦	48				1	
	合計	257				9	30
	入試方法						

平成30年3月卒業 同窓会クラス幹事

1組	権田 謙	光橋 幸輝
2組	小野 涼香	肥沼 勇樹
3組	飯倉 陸斗	本橋 由葵子
4組	牛窪 航	坂本 佑正
5組	相見 悠一	鈴木 佑佳
6組	高山 直樹	甲斐 萌子
7組	江田 惟那	加藤 小晴
8組	大橋 誠弥	神山 渚
9組	宇山 拓海	高橋 龍平

2018年度(平成30年度) 同窓会役員

役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年
顧問	肥沼 金治	30	監事	木村 一能	44	常任幹事	原田 久	54
顧問	島田 孝男	33	監事	木村 一能	47	常任幹事	原石 健俊	55
顧問	当麻 実	36	常任幹事	小澤 郁夫	29	常任幹事	大根 崇	59
会長	松本 明信	38	常任幹事	杉谷 正司	32	常任幹事	元津 夫浩	60
副会長	岩岡 民枝	29	常任幹事	秋谷 穂利	36	常任幹事	山村 泰祐	H2
副会長	森田 貢	32	常任幹事	木原 利江	36	常任幹事	大根 崇	H6
副会長	木下 武	37	常任幹事	原勝	37	常任幹事	山村 泰祐	H20
副会長	西久保 一	41	常任幹事	河江 次造	39	常任幹事	尾根 男豪	H23
副会長	保橋 栄	43	常任幹事	藤幸	40	幹事長	曾根 樹	
副会長	木下 成	43	常任幹事	谷真	43	事務部長	森正彦	
副会長	三上 己巳	59	常任幹事	富田 行	44	事務局	田中 伸	
副会長	三上 恭央	61	常任幹事	大河 喜隆	45	事務局	神谷 一	
副会長	秋田 孝	62	常任幹事	澤行	46	事務局	上原 浩	
会計	石井 里子	37	常任幹事	畠館 光	50	事務局	田中 伸	
会計	滝島 孝一郎	43	常任幹事	井下 勝也	53	事務局	田中 伸	

2017年度(平成29年度) 同窓会決算報告書

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減額	摘要
(1)会費	4,368,000	4,332,000	▲36,000	入会金(2,000円)および終身会費(10,000円)×361名
(2)雑収入	20,000	3,240	▲16,760	記念誌売上 利息
(3)繰越金	9,476,087	9,476,087	0	平成28年度より繰越
計	13,864,087	13,811,327	▲52,760	

2. 支出の部

科目	予算額	流用増減額	予算現額	決算額	残額	摘要
(1)同窓生支援費	500,000	0	500,000	233,732	266,268	同窓会開催支援 所高祭関係 卒業アルバム代 ホームページ更新
(2)在校生支援費	500,000	0	500,000	228,809	271,191	支援プログラム謝礼等 部活動助成 卒業記念品
(3)同窓会報費	3,000,000	0	3,000,000	2,394,178	605,822	印刷代 発送代 会議用茶葉
(4)会議費	100,000	0	100,000	10,881	89,119	ハガキ代 市内旅費
(5)事務費	200,000	0	200,000	5,604	194,396	文具等
(6)諸費用	200,000	0	200,000	0	200,000	
(7)会館整備費	400,000	0	400,000	138,726	261,274	清掃代
(8)周年行事助成費	500,000	0	500,000	500,540	▲540	周年行事助成費 振込手数料
(9)予備費	8,464,087	0	8,464,087	0	8,464,087	
計	13,864,087	0	13,864,087	3,512,470	10,351,617	

平成29年度収支

収入決算額 4,335,240 円

支出決算額 3,512,470 円

残額 822,770 円

3. 積立金

2,000,000円(埼玉りそな銀行所沢支店)

平成29年度決算報告書及び証書類を監査した結果、相違ないことを証明いたします。

平成30年5月7日 監事 木村 一男 監事 岡村 能成

上記の通り報告いたします。

平成30年5月12日 埼玉県立所沢高等学校同窓会長 松本 明信

2018年度(平成30年度) 同窓会予算書

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	摘要
(1)会費	4,380,000	4,368,000	△12,000	平成30年度3学年365名×12,000円
(2)雑収入	20,000	20,000	0	校章バッジ・記念誌等売上、利息
(3)繰越金	10,298,857	9,476,087	△822,770	平成29年度より繰越
計	14,698,857	13,864,087	△834,770	

2. 支出の部

科目	本年度予算額	昨年度予算額	摘要
(1)卒業生支援費	500,000	500,000	名簿発行、ホームページ管理、所高祭企画実施、その他同窓会・同窓会開催支援にかかるもの
(2)在校生支援費	500,000	500,000	在校生支援プログラム謝礼、部活動助成、卒業記念品、その他在校生支援にかかるもの
(3)同窓会報費	3,000,000	3,000,000	印刷、発送、その他同窓会報の編集にかかるもの
(4)会議費	100,000	100,000	役員会・総会茶菓等
(5)事務費	200,000	200,000	郵券・ハガキ・郵送代(同窓会報発送以外)、市内旅費、その他消耗品(資料整理用箱等)
(6)諸費用	200,000	200,000	慶弔費その他
(7)会館整備費	400,000	400,000	会館清掃費、その他備品等の購入補助、整備補助にかかるもの
(8)周年行事補助費	500,000	500,000	周年行事にかかる補助費(120周年)
(9)予備費	9,298,857	8,464,087	
計	14,698,857	13,864,087	

3. 積立金

2,000,000円(埼玉りそな銀行所沢支店)

平成30年5月12日

埼玉県立所沢高等学校同窓会

同窓会事務局より
創立百二十周年、おめでとうござ
います。学校側とも協力して以下の
取り組みを進めています。

①同窓会名簿の作成

本年十月十一日（木）開校記念日の午前中に本校体育館で以下の記念行事を実施します。同窓会役員の方々には招待状をお送りしますが、一般の同窓生のみなさままで参加を希望される方は、普通はがきにお名前と連絡先、参加人数等をご記入いたださない。

③ その他の取り組み

③その他の取り組み

- 打楽器奏者 新野将之氏の演奏
 - 来賓挨拶・所高の歴史振り返り
 - 在校生による「未成年の主張」等

記念行事プログラム

所沢高校同窓会 ホームページ

<http://www.tokoko-dosokai.jp>

○主な内容は

- ・歴史写真館
- ・校歌、応援歌
- ・同窓会報バックナンバー
- ・著名な同窓生
- ・会員交流のページ
- ・クラス会の連絡、報告等

◇会報バックナンバーは、次の ID・パスワードを入力のうえ、開いて下さい。

I D : **tokoko** パスワード : **midorino**

会員交流のホームページは、ホームページから個々に登録することで、使えるようになります。

HP開設の目的は、会員の皆様への情報提供ですが、それ以外にも、現役の所高生やこれから所高を受験しようと考えている中学生やその保護者の方への情報発信にも役立てば、と考えています。

どうぞ、ご協力をお願いいたします。

INFORMATION

- 『所沢高校百周年記念誌』、写真冊子『所沢高校百年の歩み』、校歌・応援歌・商業学校学生歌・女学校朝会歌を収録したCDをご希望の方は所沢高内の同窓会事務局までご連絡ください。
 - クラス会・同期会の幹事さんへ（お願い）
同窓会の様子を同窓会報の記事としてお寄せいただければ幸いです。ご協力お願いいたします。
 - 同窓会報で取り上げて欲しい話題等ありましたらご一報ください。また、活躍なさっている同窓生の方をご存知でしたらお知らせください。

- 住所変更等の場合は、ハガキなどの文書でご連絡ください。その際、記入者欄は必ずご記入ください。未記入の場合はお受けできない場合があります。なお、ハガキでの連絡で、個人情報を隠したい方は、お手数ですがハガキを封筒に入れご郵送ください。
 - 同窓会名簿の取り扱いにはご注意をお願いいたします。名簿発行は、同窓会名簿に掲載されている同窓生の方の申請のみの受け付けとなります。発行のために身分証明書をご持参の上2度ほど所沢高にご来校いただくことになります。個人情報保護のため煩雑な手続きとなっておりますが、ご理解、ご協力を
お願いいたします。手続きの詳細につきましては、事務局までお問い合わせください。

百二十周年ということもあり、今号は同窓会報告を多く寄せていただきました。どれも内容豊かで所高の伝統を改めて実感しました。その分、在校生の紹介が少なくなりました。所高の公式HPへアクセスしてください。元気な在校生の活動が紹介されています。周年行事への取り組みは同窓会のHPにも発信してゆく予定です。そちらもご覧ください。

編集後記

3 加入者名 瑞玉県立所沢高等学校
期間 平成31年2月末日

2 1
口数
振り込み
口座番号
1 口 2、000円
郵便振り込みで、
0 0 1 2 0 6
5 3 7 5 4

3 2 1 施設・設備の拡充援助
教育活動への助成
各行事への助成

贊助会員は本会の趣旨に賛同いただけ
る方で、「贊助会員の期間は原則として
1年」とし、翌年度の会費納入をもつて
更新する(後援会会則第4条2項)こと
になっています。

会費の納入については以下の様にお
願い致します。

所沢高等学校後援会 賛助会員加入のお願い

印刷 有限会社須賀印刷
049(222)1989

駒井光明氏（昭和50年卒）
会報題字
毎日展審査員